

# 台風や集中豪雨に備えを

## 事前の準備

全国で巨大台風や集中豪雨が発生し、洪水や土砂災害などで、多くの尊い命が失われています。ふだんから気象情報に注意して、土砂災害や洪水のおそれがある場合は、早目の避難を心掛けましょう。

災害は、「いつ」、「どこで」起こるか分かりません。災害が起こったときに最も重要なことは、市民の皆さん一人一人が、命を守るための適切な行動をとることです。日頃、災害に備えて、どのような準備をしていたらよいか、災害が起きたときには、どのようなように行動したらよいか、適切な知識を持ち、いざという時のためにしっかりと備えておきましょう。

問い合わせは、安全安心課防災係（☎内線415）へ。

備蓄品は、3日分程度を目安としましょう。

## 家族との連絡方法を確認

災害が起きたとき、まず心配になるのは家族の安否です。いざという時の連絡方法を、あらかじめ家族で決めておきましょう。

## 災害の発生直前・発生したとき

身の安全を確保して、正確な情報を集める

災害のときは自分の身の安全を確保し、テレビやラジオなどからの気象情報や避難情報などに注意しましょう。

市が避難情報を伝達する主な手段は次のとおりです。

緊急速報メール／桐生ふれあいメール／防災ラジオ／防災行政無線／市ホームページ／自治会／自主防災組織／広報車

## 迅速な避難

避難情報が発令されたときは、できるだけ早く避難しましょう。

避難情報が発令されていないくても、身の危険を感じたときは、自主的に避難しましょう。

## 地域の危険箇所や避難場所、避難経路を確認

地域によっては、地震や洪水、土砂災害など、災害の種類によって避難場所が異なることがあります。事前に避難場所となる公民館など公共施設のほか、自宅から近くで、より安全な場所や、地域で定める避難場所を確認しておきましょう。

## 勤務先・通学先でも避難経路を確認

勤務先や通学先など、ふだんから通う場所においても、避難場所や避難経路の確認をしましょう。

## 非常持ち出し品や家庭内の備蓄品の準備

持ち出し品は、避難場所までの距離などを考えて、持って避難できるだけの量にしましょう。

## 天気予報などでよく聞く「激しい雨」ってどんな雨？



「1時間に30ミリ以上の激しい雨が降るおそれがあります」  
皆さんも、ふだん、天気予報などで耳にしたことがあるかと思います。このほかにも「猛烈な雨」などといった雨の強さを表す表現がありますが、実際にはどのような降り方をする雨なのか、御存知ですか。雨に関する正しい知識を持ち、日頃から災害に備えましょう。

雨の強さ (予報用語)	1時間の 雨量 (mm)	人が受ける印象	人への影響	屋内	屋外の様子	自動車に乗っていて
やや強い雨	10以上～ 20未満	ザーザーと降る	地面からの跳ね返りで足元がぬれる	雨の音で話し声が良く聞き取れない	地面一面に水たまりができる	—
強い雨	20以上～ 30未満	どしゃ降り	傘をさしてもぬれる	寝ている人の半数くらいが雨に気が付く		ワイパーを速くしても見づらい
激しい雨	30以上～ 50未満	バケツをひっくり返したように降る			道路が川のようなになる	高速走行時、車輪と路面の間に水膜が生じブレーキが効かなくなる(ハイドロプレーニング現象)
非常に激しい雨	50以上～ 80未満	滝のように降る(ゴーゴーと降り続く)	傘は全く役に立たなくなる		水しぶきであたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる	自動車の運転は危険
猛烈な雨	80以上～	息苦しくなるような圧迫感がある。恐怖を感じる				

# 防災チェックシートで、身の回りの確認を

家庭で、日頃から、災害に対する心構えや備えについて話し合ひましょう。

## 非常用持出品を確認（すぐに持ち出すもの、最低限必要なもの）

□飲料水 □非常食 □携帯ラジオ、予備電池 □懐中電灯、予備電池 □医薬品（傷薬、ばんそうこう、かぜ薬、胃腸薬など） □貴重品 □衣類 □生活必需品



## 非常用備蓄品を確認（3日分程度の用意が目安）

□飲料水（1人あたり1日3リットル） □食品（缶詰、レトルト食品など） □燃料（卓上コンロ、固形燃料など） □食器（わりばし、紙皿など） □毛布、タオルケット □歯ブラシ、石けん □防寒着 □工具類（のこぎり、バールなど）

## 屋外を確認

□屋根の点検・補修の実施 □雨戸にがたつき、ゆるみがないか □プロパンガスのボンベ、灯油タンクの転倒防止 □ブロック塀などの補強の実施 □側溝や排水溝の清掃、詰まり除去 □自宅周辺の危険箇所を確認

## 屋内を確認

□家具の転倒防止 □家具の上に重い物を置かない □逃げ道となる通路や出入口付近の整理整頓 □ガラスの飛散防止 □照明器具の落下防止 □住宅用火災警報器の設置 □家庭用消火器の設置

※防災チェックシートは市ホームページ又は市役所3階の安全安心課、新里・黒保根支所市民生活課で配布しています。

桐生市民の皆さん、こんにちは。群馬大学桐生キャンパスで防災研究を担当している片田敏孝と申します。桐生市の防災アドバイザーを仰せつかっております。そんな御縁もあって、昨年に引き続き広報きりゅうの防災コラムを担当することになりました。日頃の研究活動や全国各地で展開している防災活動を通じて思ったことなどを、全3回の予定でお伝えしたいと思っておりますのでよろしくお願ひいたします。

それでは、まず第1回目として「みんなで避難の重要性」について、お伝えします。

今年もいよいよ台風シーズンとなり、天気予報の台風情報が気になる季節となりました。地球温暖化の影響で台風の巨大化が進んでいることもあり、今回は台風接近時の避難について考えてみます。

台風が接近し風雨が強まると、誰もが不安になるものです。台風の場合、風雨が強まってからの避難はかえって危険を伴うことも多く、事前に避難することが必要です。しかし、実際に危険が迫る前に避難を判断することはなかなかできないものです。これまでのように今回も多分大丈夫だろう。みんなも逃げているし……。そう思うことは人として自然のことのようにも思えますし、周りが避難していない中で、自分一人だけが避難することは難しいことです。

## 桐生市防災アドバイザー 片田教授の防災コラム①



## みんなで避難の重要性

しかし、台風で甚大な被害を出した現場の多くでは、このような思いの中で避難が遅れたり、どうにもならない状況の中で無理な避難をせざるを得ず、それが被害の拡大につながったりしています。

各地の災害を調査する中で実感していることは、人は一人ではなかなか避難できないということなのです。しかし、避難が上手くいって被害を出さなかったケースを調べると、そこには共通して、住民同士が声を掛け合い、誘い合って事前の避難をしています。このような声の掛け合いは、隣人同士の日頃のお付き合いの中で行なわれていたり、自主防災組織で行なわれる前、何となく不安を感じつつも自分一人で避難の意を決することができるできないなかであって、周囲の誰かが声を掛けてくれることは、避難の意を決する後押しになるのです。避難は一人ではなく、皆ですることが大切です。特に自主防災組織で声を掛け合う仕組み作りをしておくことは、犠牲者を出さない地域づくりの第一歩だと思います。

片田敏孝氏 群馬大学広域首都圏防災研究センター長。群馬大学大学院理工学府教授。専門は災害社会学。平成26年4月から桐生市の防災アドバイザー